巻頭インタビュー

スポーツ界で活躍する女性たち

ソウル五輪で初の女性旗手を務め、アーティスティックスイミングで銅メダルに輝いた、小谷実可子さん。引退後も、2人の娘さんを育てながら、東京2020招致アンバサダーなど、国際的に活躍されている小谷さんに、女性アスリートをはじめとするスポーツ界で活躍する女性たちと、東京2020大会への思いについて語っていただきました。

©大田区

小谷実可子（こたにみかこ） さん

元アーティスティックスイミング選手・オリンピアン
日本オリンピック委員会理事

幼少の頃から才能をみせ、高等学校は単身米国にアーティスティックスイミング（旧名称：シンクロナイズドスイミング）留学した。日本代表となると、ソウル五輪では初の女性旗手を務め、ソロ・デュエットで銅メダルを獲得。日本シンクロの女王に君臨したが、プール外に活動の幅を広げるために休養し、その間に長野五輪招致に携わる。バルセロナ五輪を視野に復帰し代表となったが、本番では出場機会を得られず同大会の後に引退した。国連総会に民間人として初めて出席した経験を持ち、五輪・教育関連の要職に数々抜擢。世界大会のリポーター、東京 2020 招致アンバサダーを務めるなど国際的に活動する一方、自身がコーチを務めるクラブでアーティスティックスイミングの魅力を伝承している。

育児をする女性アスリートが自然に受け入れられる時代へ

私が出場したソウル五輪の頃から女性の競技種目が増え始め、東京2020大会の種目数は、ほぼ男女同数です。ナショナルトレーニングセンターには女性の相談窓口や託児所などが設けられ、女性アスリートが活動しやすい環境が徐々に整ってきています。

クレー射撃の中山由起枝選手が子育てをしながら東京2020大会の出場を決めたように、トップレベルで活躍する女性アスリートの存在は、後に続く人たちの手本になっていると思います。育児と両立させながら競技を続ける女性たちが集まって、情報交換をして苦労を分かち合ったり、励まし合うこともあるんですよ。

以前は「子どもを犠牲にして競技を続けるなんて、母親としてどうなのか？」という考え方がありました。しかし、家族の協力を得られたり、競技を続けやすい環境が整うことによって、母親がアスリートとして頑張る姿を見せながら子育てをすることが自然に受け入れられる時代へと変わってきています。ラグビーワールドカップで、聖域であるグラウンドで子どもを抱っこする選手の姿が微笑ましく見られましたが、自分の活躍